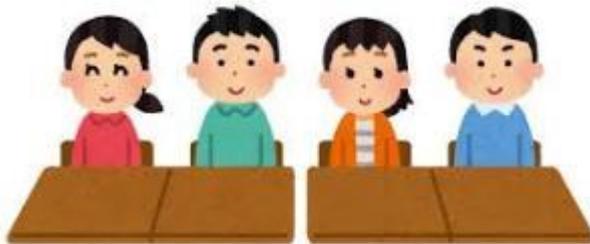


「朝の会」どうしていますか？

朝の会は一日の始まり、とても大切な時間です。

子どもたちは、登校前にそれぞれの家庭でいろいろな時間を過ごしています。早く学校に行きたくて楽しみに登校してきた子ども、ぎりぎりまで寝ていて遅刻しそうになった子ども、朝ご飯を食べずに来た子どもなど様々です。しかし、一歩学校に入ったら、スタートラインは同じです。

朝の会は、本日の伝達事項を子どもに伝えるだけのものではありません。1日の学級経営の始まりです。朝の会を充実したものにするために「京のせんせいの知恵袋」からヒントになることを紹介しましょう。



○一日の始まり！ ひとひとひとに対応しましょう

ステップ1 「子どもの様子をしっかりと観察しよう」

朝一番は、教室で子どもたちを出迎えて「おはよう」の挨拶をしましょう。先生の明るくて元気な「おはよう」の挨拶は魔法の言葉です。子どもたちの朝の挨拶の声で、健康状態や登校前の家庭での様子がわかるものです。

低学年の場合は、登校してきたら連絡ノートの確認をします。体調について書かれていたり、先生に知っておいてほしい重要なことが書かれていたりする場合があります。

ステップ2 「朝の会のはじまりは、大きな声であいさつしよう！」

日直さんの号令で、大きな声で全員「おはようございます！」の挨拶をしましょう。ここでは、「大きな声」というのが大切になります。しっかりとお腹から声を出すことで、気分が明るくなり「がんばろう」という気合いが入るからです。

ステップ3 「朝の会のルールを共有しよう」

朝の会の進行は、特定の子どもたちではなく輪番になる日直の仕事にしましょう。全員が経験することで、どの子どもも会を進めていく経験ができます。低学年の場合は、先生が決めて、日直が見えるところに掲示したり、会の進め方のカードを準備したりするのがよいでしょう。中学年以上になると、それまでの経験を生かして、子どもたちと一緒に決めていくのがいいと思います。与えられたルールより自分たちで決めたルールの方がやる気おこります。またみんなで決めたということにより定着しやすいものになります。

ステップ4 「朝の健康観察は、必ず一人ひとりの目を見て話そう」

「健康観察」では一人ひとりの名前を、顔を見て目をしっかりと合わせながら呼びましょう。「元気です。」という返事だけで判断するのではなく、表情や様子から読み取るようにしましょう。低学年では指を怪我したことまで報告する子供もいます。急いでいる時など聞き流すような対応をしたくなりますが、何かのサインを発している場合もあります。「先生はきちんとあなたのことを見ているよ。」という対応が、子どもの気持ちを落ち着かせることとなります。



「朝の会」バージョンアップ版

・朝の会の時間設定は学校によって違うのですが、小学校の場合、時間設定はある程度担任に任せられるところです。毎日の帯の時間を有効に使ってみませんか。

①「朝のスピーチタイム」

毎日、日直当番にするなど、全ての児童がみんなの前でテーマに沿って発表する時間を設けます。話し手は、きちんとみんなに聞こえる声で話します。聞き手は発表を聞いて、その内容について必ず質問「おたずね」をします。「おたずね」は1往復でなく2往復程度はできるような質問を考えます。子どもたちのスピーチや質問、答えが分かりにくい場合は教員が補足して、全員が理解できるようにします。

人の話を聞いて、要点をまとめるのも大切な力ですが、最初から要点をまとめることはできないので、低学年の時は担任が黒板に要点などを書き、写すことから始めます。毎日の積み重ねは大きいもので、人の前で話すテクニックや人の話の聞き方がだんだんと身についていくものです。

②「毎月の歌」を歌う

挨拶もそうですが、歌もお腹から声をだすことで気持ちが明るくなります。新年度は、1年生だけでなく全校で校歌を歌えるようにすることも大切です。毎月の歌を決めたり、「6年生を送る会」歌を歌ったりするのもいいですね。

